

▶第28回目となる今回は、山梨県立大学 国際政策学部 総合政策学科 3年 名取春之介さんが、生活協同組合 パルシステム山梨 理事長 白川恵子氏 を取材しました。



経営者

生活協同組合 パルシステム山梨
理事長
白川 恵子 氏



学生

山梨県立大学
国際政策学部 総合政策学科
3年 名取 春之介 さん

組合員と生きる

▶学生 事業内容についてお聞かせください。

▶経営者

パルシステムは前身の生協から数えて2012年に50周年を迎えました。現在は「心豊かな暮らしと共生の社会をつくる」というグループ理念のもと、様々な事業や運動を地域で展開しています。

生協の「事業」とは、事業そのものが組合員や地域の暮らしに貢献していかなければなりません。また、営利を目的とせず、様々な地域の課題を担っていくことだと思っています。

現在、発展途上国の貧困問題、地球温暖化やゴミ問題等の環境問題など、私たちが直面している課題が山積しています。その全部を解決に導くことは難しいですが、それらを組合員や地域住民と一緒に生協が持つ共同の力で解決を図っていくのがパルシステムの「事業(運動)」です。「事業」と「運動」は相反するものようですが、目的は一緒です。

▶学生 日本の農業が全体的に疲弊していることについてどのように考えていますか？

▶経営者

確かに、日本の農業は厳しい状況にあると思います。その中でも私たちは一部ではありますが、県内産地の支援をしています。パルシステムでは、有機農家や減農薬に取り組んでいる産地にスポットをあて、独自の基準を設けて生産物の取引を行っています。そのため、スーパーで買う

青果物よりも高値かもしれませんが、その生産に見合った対価をお支払してもらうことを心掛けています。また、パルシステムが提供する商品は「安心」だけが売りではありません。私たちは生産者と契約に基づいて取引を行っているため、市場の変動に左右されることなく、組合員へ安定した供給を行うことができます。

▶学生 パルシステム山梨が学生に求める人物像は？

▶経営者

私たちが学生と面接をする際に注目していることは二つあります。

一つは「人柄」です。面接の際に学生に突拍子もない質問をします。そこで注目するのは、それが正しい答えかどうかではなく、どんな質問にも誠実に答えようという意識があるかどうかです。入社し研修を終えて一番に行うことは配達の仕事です。配達は組合員のことを知るために最も重要な仕事だと思っています。まず、配運を担当する職員は組合員と最も距離が近いことから、パルシステムの顔として誠実な人柄が大切です。

もう一つは「本気度」です。学生にはよくパルシステムの何を知っていて、どんなところに興味があって応募したのかを聞いています。中には何十社も受けている方もいれば、その場の流暢な会話ができる方もいます。しかし、どんな人が来ても、面接だけではわからない部分があります。だから数多くの学生から、入社してほしい人材を選ぶときには「人柄」と「本気度」をみて、一人の人間としてふさわしいかどうかを判断するようにしています。

▶学生 入社後に行う研修内容を教えてください。

▶経営者

配運の仕事から入るので、教習所で2tトラックの技能研修を行います。また東京都のパルシステムの本部で生協の歴史や役割などを勉強をする他、産地研修もあります。他の生協ではないという取り組みとして、北杜市にある無農薬無化学肥料野菜を生産する農場で2~3週間の農作業を体験してもらいます。また秋田県の大潟村でも、田植えから収穫まで行いながら勉強します。

取材を終えて...

経営の話とは別に就職についての質問もさせていただきました。私は今まで就職活動をする際、何を基準にして仕事を選べばいいのかわかっていませんでした。このことについて白川理事長は「やりたいことを優先的に」ということをアドバイスしてくれました。自らの体験に基づいた話だったので、とても説得力があり、自分の納得する答えが見つかりました。今回は貴重な時間をいただき、本当にありがとうございました。

